

## 全自動血液凝固検査システム STACIA CN10 における凝固波形パラメータの基礎性能評価

◎河本 友美<sup>1)</sup>、久保田 芽里<sup>1)</sup>、大坂 直文<sup>1)</sup>、榊谷 亮太<sup>1)</sup>、森田 一馬<sup>1)</sup>、中澤 歩美<sup>1)</sup>  
学校法人 大阪医科薬科大学 大阪医科薬科大学病院<sup>1)</sup>

## 【目的】

近年、凝固時間を測定した際に得られるパラメータを用いた凝固波形解析 (Clot waveform analysis; 以下 CWA) が盛んに研究されており、その有用性が多数報告されている一方で、凝固波形パラメータ自体の基礎性能を確認した報告は少ない。今回、全自動血液凝固検査システム STACIA CN10 (LSI メディエンス, 以下 CN10) の凝固波形機能で得られる凝固波形パラメータの基礎性能を評価した。

## 【対象および方法】

ヒモスアイエル II, V, VII, VIII, IX, X, XI, XII 因子欠乏血漿, LA 陽性コントロール血漿 (ともにアイ・エル・ジャパン) ならびに、当院検査部に提出された 3.2%クエン酸 Na 加血漿の残余検体 19 例と健常人 5 例の検体をそれぞれ 5 重測定し、各試料の凝固時間と CWA における一次微分波形の最大値 (以下 max1)、二次微分波形の最大値 (以下 max2) および二次微分波形の最小値 (以下 min2) の再現性を評価した。なお、凝固波形が得られなかった検体は評価対象から除外した。検体の内訳は未分画へパリン投与 5 例、ワルファリン投与 5 例、抗

リン脂質抗体症候群 4 例、血友病 A 4 例、先天性 VII 因子欠乏 1 例である。

## 【結果】

II, VIII 因子以外の各凝固因子欠乏血漿, LA 陽性コントロール, 患者検体, 健常人ボランティア検体の凝固時間と CWA における max1, max2 の CV はすべて 3%以内であり、再現性は良好であった。II, VIII 因子欠乏血漿では二次微分波形が得られなかった。

## 【考察】

今回の検討より、CN10 の凝固波形機能から得られる max1, max2, min2 の再現性は良好であり、CWA の各パラメータを活用した運用においても信頼性のある結果であると思われた。一方で、II, VIII 因子欠乏血漿では測定秒数が高度に延長しているため、二次微分波形の形状が乱れており再現性の評価が出来なかったが、血友病 A 症例の再現性は良好であったため問題ないと考えられる。本検討より、CN10 の凝固波形機能は十分な基礎性能を有していると考えられる。

Mail:tomomi.kawamoto@ompu.ac.jp